

* 万能メディアプレイヤー

副会長 浪崎一彦

ここ数年で主流となり得る静止画の形式はUNISYSのお陰*注1もあり、jpegが圧倒しているかに思えますが、動画に関しては、主にメディアプレイヤー側の再生能力と、ネットでの流通や、リムーバブルメディアの容量および価格の問題から、様々な規格が発案され、AVI、ASF(.asf, .asx, .wmv, .wvx, .wma, .wax)、DivX、Motion-Jpeg Mpeg1、Mpeg2、MP4(.mp4, .m4v, .m4a)、QuickTime、AnimationGIF FlashVideoと私がよく目にするものだけでも、なんと10種類ものフォーマットがあ



り、特に私自身も困っているのが、ASFとMP4で、この2つは、単に拡張子を書き直せば、動画を再生で

きるという甘いものではなく(拡張子をAVIとかに変更すると見ることができるファイルもmpeg2などならば存在はします(^_^;))、ASF MP4対応と謳われているプレイヤーをもってしても、その動画を記録した機器に付属のプレイヤーをインストールしないと見ることができなかつたりして、授業等への利用への敷居が高く、せっかく授業に使えるような動画を旅行のついでや研修期間に撮影してきても、一般教室で再生することが難しかったりして、面倒くささのあまりつい死蔵されてしまうことが多々あります。

これと似た現象は今までも経験しています(^_^;)。そうです銀塩カメラ(もうマニアしか使ってないのでしょうか?)で数千枚取って殆ど授業に利用しなかったスライドです(^_^;)。

私は一応社会科の教師なので、どこかへカメラを持って出かけると、つい職業病(趣味??)で、授業に使えるような被写体を撮りためてしまうという悪い癖(??)があるのですが、昨今のようにデジタルカメラならば、信じられないほど急速に単価の安くなったDVD-Rに焼いて取っておくだけなの、大して時間も費用もかかりませんが、銀塩のスライドの場合はまず、スライド用フィルムを買って(普通のフィルムよ



りずっと高い (^ ^ ;))、更に自分で現像するためには専用の部屋とそれなりの道具を揃える必要があるので、普通はラボに出して現像料もかかり……と下準備だけで、かなりの費用と時間がかかりました。さらにスライドがバラバラになってしまうと、どれがどれだかパニックになるので、専用のバインダー等に整理しておかないといけません。それで初めて、授業で使うための準備が終わります。

じゃあ、これですぐに授業に使えるかという、まず職場にスライド映写機を購入してもらい、そうそうスクリーンもないと……。そして授業のたびにスライド映写機とスクリーンをそれぞれの教室に運んでという手間もばかにならず……。またスライドの枚数が少ないうちはともかく、数百枚ぐらいになってくると必要なものを探すのも大変だし、使ったらすぐにもとの場所に戻しておかないと、わけがわからなくなって……。

と、書いているだけでも嫌になってくる始末です (^ ^ ;)。

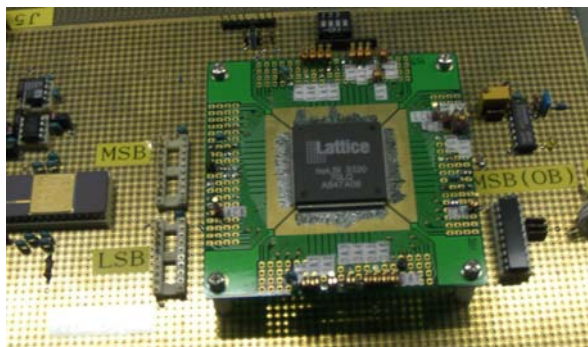
で、これだけの苦勞をして授業に使ってみると……ZZZ…… (^ ^ ;)。

まあ、私も大学の時にスライドを多用する授業を受けていた学生時代を思い返すと、ひとのことを言えた義理ではありませんが、部屋を暗くして、動きのない写真を見せられていると、猛然と睡魔が襲ってくるものなのです。

試しに授業で β (!!) から落としたVHSの動画を使ってみると……。文部科学省推薦の結構お堅い動画であっても、そこはそれ動画の強み！スライドに比べればはるかに寝ている生徒は減ってきます。

ということもあり、せっかく撮影した数千枚のスライドは有効に活かされることはなく朽ち果てるのを待っています (^ ^ ;)。

それではあんまりだということで、15年前ぐらいからスライド映写機を授業に使おうなどは考えてもいませんが、せっかく撮りためてスライドを何とか無駄にすまいと、大枚15万円もはたいてフィルムスキャナを購入し、何かの作業についでに1枚づつちまちまとスキャンしてjpeg画像として保存する計画だったのですが、数百枚の整理が終わったとき、さらに20万円ぐらいはたいて数十枚を一括スキャンするというアダプターでも買わない限り、「これはやっつけられない!!」ということになり、その事実気づいて以来数年間、フィルムスキャナはメインのパソコンの



横にモニュメントとして飾られているのでした（^^;）。

以上の経験から動画の力のあなどりがたさは非常によく理解してはいますが、テープメディアでの動画の編集というのは、ただ必要な部分をつなぎ合わせるだけでもかなりの時間と手間がかかるし、タイトル等を見栄えよく入れるためには原始的な特撮もどき（??）の作業をしなければならず、もともとそのような作業が趣味な人か、よほどの物好きか、必要に迫られていない限り、とてもやれるような作業ではなかったように記憶しています。

かく言う新しもの好きの私は、初めてビデオカメラ（8mm ビデオ）を買ったときに、勢いで編集機器と編集キットまで買ってしまいましたが、一度もまともに使われることなくゴミと化していきました（^^;）。

そうそう、私と同じように8mm ビデオの撮影済みテープを多数抱えている人は手遅れになる前に今までのテープを早く他のメディアに移しておかないと、見るのが非常に困難になりつつあるので、お気をつけください。私自身7～8年前から憂慮していたのですが、数年前から厳しい現実になりつつあり、イトーヨーカ堂などにあるラボ（??）に8mm テープをDVDへ焼いてくれるサービスがあったので、料金を聞いたら、あまりの高額で卒倒しそうになりよく覚えていませんが、数年前に最初に目にした時は、テープ1本あたり確か1万円あたりだったような気がします（最近確認したところテープ1本あたり2000～3000円ぐらいに値下がりしていました）。



これでは、とても先立つものが……（^^;）。ということで、何とか自分でやるしかないという結論になりました。

「8mm のデータをパソコンに吸い取り、DVD のオーサリングソフトでDVD を焼き付けければ簡単さ」ということはよくわかっていますし、我が家にはその環境は十分すぎるほどに整ってはいますが、貴重な自由時間にこのような単純労働で時間を消費するのは、人生の残り時間が少なくなってきた私には……。じゃあ定年後にゆっくりやればいいじゃないかという、そのころには多分よほど特殊な環境か相当なお金持ち（受注生産）でないと8mm テープを再生できなくなっているかもしれない……というジレンマを抱きながら実はもう5年近く経過してしまいました（^^;）。

そう考えると現実の問題として VHS はよく生き残ったものだと改めて感心します。

以前勤務していた学校のメカトロニクス部で文化祭の時に数年間自宅で使っていた VHS のデッキで、まだ壊れていない（もちろんそろそろ危ないものですが）ものをテープの挿入やテープがヘッドにまとわりついていく状況が見えるような形にして展示したことがあります。その時目にしたのは壊れかけたビデオデッキなのに確実にテープをヘッドに巻き付けていき、決して絡まることのない見事な動きで、そしてふと脳裏をよぎったのは、VHS の生き残った原因は、その性能というよりは機械としての堅牢さと確実さにあるのではないかということでした。

もっとも VHS が普及する当時の圧倒的な松下電器（Panasonic）の市場における強大な力が β を追い込んだ大きな原因だったことも否めませんが……。



現在、動画はハイビジョン化が進んでいますが、確かに地理の授業でも利用できそうな、他国の風景を紹介している番組では、その精細化された映像は、おおげさではなく、まるで自分がそこにいるかのような錯覚さえ覚えるので、もしこれが近い将来（？）に立体映像化されれば、かなり多くの生徒に地理の授業に興味を抱かせられると思います。

立体化されていなくても教室の黒板いっぱいにはハイビジョン映像で外国の風景が映し出されるだけでもかなりの効果はあると思いますが……（^^）。

ただ、ストーリーが重要な意味を持つ作品では、仮に映像がハイビジョンであろうと内容がつまらなければ、全く意味がなく、昨今の日本のつまらないドラマを見てみると（滅多に見ませんが、たまに魔が差して（^^;））内容は全く「ないよう」なのに、月が出るシーンを見るとまだ視力（だけが）自慢の私にはクレーターまではっきり、くっきり見えてしまい妙に複雑な心境になります（^^;）。

ストーリーがしっかりしている作品でもクレーターまで見えると、現実味がなくなりしらけてしまうのは私だけでしょうか？

なぜなら、いくら数年前までは 2.0 を誇った（今は少し落ちています（^^;））私でも肉眼で天然の月を見たときに、クレーターまで見えたということは決してなかったからです。真昼の星が見えたとされる WW II 当時のエリートパロットなら見えた

のでしょうか(??)。

何が言いたいのかというと、なんでもかんでもハイビジョンにする必要はないし、動画の用途によっては VHS の3倍速記録並みかそれ以下の画像でも十分に用をなすということです。それは昨今の「YOU TUBE」や「ニコニコ動画」の盛り上がりにも象徴されているのではないのでしょうか？



先ほどの地理の授業とかの場合などは、ハイビジョンであった方がより

効果的であることは間違いないですが、一般に学校の授業で動画を見せる場合には、私の今までの経験からは VHS の3倍速録画程度の画質があれば実用上は問題はないと思われまます。ということは、mpeg1 程度の画質でも OK ということで、このあたりの動画であれば、7～8年前のノートパソコンでもしっかり再生させることができるので助かります。欲を言えば DivX のような容量は非常にコンパクトであるが、画質はちょっと離れて見れば標準画質の DVD と間違えることもあるかもしれないというものを使いたいところですが、DivX の再生のためのコーデックなどはずいぶんと入手しやすくなりましたが、自分で撮影したホームビデオの動画を DivX に変換しようとする、その手のソフトを学校の公費で買うことは結構ハードルが高かったりして困ります(^^;)。

で、そろそろ万能メディアプレーヤーの話に移らないとタイトルと違うじゃないかということになるので……(^^;)。

パソコンがその設定さえ正しく行えれば、万能メディアプレーヤーであることは皆さん承知のとおりなのですが、適切なコーデックがインストールされていない場合は全く再生できなかつたり、映像だけだ



ったり、音声だけだつたりという悲しいことになつたり、そもそもパソコンってものは電源をいれてすぐには使えず、また使い込めば込むほど、起動時間の予測がつかず(最悪はブルーバック！またはセーフモード、もっとひどいときは所謂「黒画」(何も映らない))という、これだけ広く一般に普及していながらこれだけ不安定きわまりない商品は珍しいという困ったシロモノなので、確実にあらゆるフォーマットを再生できる安い万能メディアプレーヤーを私は数年前から秋葉原で物色しているのですが、

未だに「これは」というものは見つかっておりません。

2007年年末に家族で秋葉原へ出かけたときに、ついここ数年気になっていたDivXも再生可という¥6300也のあやしいDVDプレイヤーを勢いで買って見ましたが、確かにそれなりの高品質でDivXが表示できたので、看板にいつわりはなかったのですが、その後がいけません(^^;)。「DivXが再生できるんだから他のフォーマットは殆どOKだろう」と勝手に思いこんでいたら、最新のAVCHD規格*注2はその価格からも期待していませんでしたが、結構昔の規格のものでうまく再生できず、また「安物買いの銭失いをやってしまったかな……」とも思いましたが、このあたりは単純に一流メーカー製の高いプレーヤーならOKか?という、そのようなプレーヤーは妙に著作権保護に力をいれているのか、使い勝手が悪いということがままあるので、購入時にとっても難しい判断を迫られるので、まあ、価格から考えれば6割は購入して正解だった(かの武田信玄も7割の勝ちをもってよしとせよと言っていたので)と思われるので、まああの買い物かなと納得しようと努めています(^^;)。

しかし、その数日後、息子に背中を押されついに買ってしまったプレイステーション3(以下PS3)によって、動画再生にまつわる諸問題が一気に解決してしまうとは思っても見ませんでした。

PS3の画質には興味はあったのですが、もうゲーム機を買うことはやめようと子



供たちにも言い聞かせていたので、2006年末の発売以来できるだけPS3の情報は見ないようにしていたのと、たまにニュースの記事でWiiの一人勝ちのようすを見ていると、ソニーの関係者などが、PS3は単なるゲーム機ではないと豪語している記事を見るにつけ、正直言って私は

「負け犬の遠吠え」としか気にとめていなかったのですが、実際に買ってみて手持ちの動画を片っ端からPS3に再生させてみると……!!!

手持ちのほとんどすべてのフォーマットの動画がHDMIを通してみごとな画質で見ることができるではありませんか!!!PS2の発表の時はまだDVDプレイヤーが高価で、DVDプレイヤーとしても使えるという謳い文句で宣伝されており、まさにその謳い文句どおりの使い方をしてきた卒業生らも数名ほどいた(何と彼らは本当にPS2をDVDプレイヤーとしてのみ使用していて、ゲームソフトを買っていなかったのです(^^;))ので、PS3の場合も現在(2008年1月現在)はまだブルーレ

イディスクプレイヤーが普及していないので、そこをを狙ったものとはしか認識していませんでしたが、その考えはみごとに一掃されました（^^）。

ソニーのように著作権にうるさいメーカーとは思えない、あらゆる種類のフォーマットの動画をみごとに再生する様子（もちろん限度はありますが（^^;））には久々の感動すら味わえました（^^）v。

さらに5年以上前に買ってお蔵入りしていたUSB変換コネクタ付きキーボード（PS2用（AT互換規格）のものにUSB変換コネクタが付いたものなのに、USBキーボードをBIOSで標準サポートしているマザーでもなぜか正常に機能せずお蔵入りになっていた）をPS3に差してみたところ何の問題もなくすんなりと認識し、手持ちのパソコン用メモリーカードリーダーは言うに及ばず、パソコン用の外付けハードディスクまでもがきちんと動作し、PS3のバックアップをそこへとることもできたので、これってパソコンそのもの（??）ではないのかという結論に達しています（^^;）。



もちろん外付けのHDDに保存されたDivXをはじめとするあらゆる動画とJpegなどの画像も再生できました（^^）v。

また、ユーザーの使い勝手や権利を全く無視した（としか思えない）現在のCPRMでガッチリガードされたDVDもRAM以外はきちんと再生してくれました。

むしろDVD-RWに関しては録画に使用したPanasonicのレコーダーでなぜかうまく再生できない部分（これもコピーワンスの弊害でHDDに戻すこともできず……。）も難なく再生してくれました（^^）。

びっくりしたのは最近のPanasonicのSD-RAMに直接記録するタイプのビデオカメラに採用されているハイビジョン映像記録規格AVCHDに対応していたことで、実はこの規格のデータの再生は、今まではそれなりの能力をもったパソコン（特にノートパソコンの場合はビデオカードやCPUが発熱量軽減やバッテリー駆動時間を優先しているものが多いので、マニアックなハイエンドなものでないといけない）が必要で、更にビデオカメラに付属しているソフトをインストールしないと再生できなかったもので、正直言って、もう「びっくり!!!」しました（^^）。

このメーカー純正のハイビジョン映像記録規格 AVCHD の再生用ソフトが、なぜか WindowsXP SP2 以上でないとインストールすらできず、私の職場には結構な数のパソコンがあるのですが、皆ネットに繋がっていないのでインストール可能なパソコンは1台しかなく、苦勞している最中だっただけに、半ば真剣に学校にPS3の導入を考えている今日この頃(^^;)です。現実には導入時のハードルは富士山のように高いでしょうが……。



ちなみにハイビジョン映像記録規格 AVCHD 対応の SD-ビデオカメラはテープや DVD を駆動する部分が一切ないので、当然防塵性が極めて高く、故障しにくく小型軽量なので、体育祭などの砂埃の多いところでの撮影には極めて有効です。そしてその記録された映像は、看板にいつわりなくフルハイビジョン対応の42インチ液晶テレビで表示しても、かなり近寄って見てもくっきりはっきりしたものです！。

ただ、上記の理由から(買ってから気づいたのですが(^^;))、現時点(2008年1月末)においては、まだ一般の人々に手放しで勧められないのが唯一の欠点です。おそらく時が解決してくれるとは思いますが……。

Panasonic の SD ビデオカメラは極めて軽量で高画質そして故障の要素も極めて少ないので、その点については手放しで勧められますし、AVCHD のディスクとして



SD-RAM のデータを作成するのは極めて短時間で終わる(専用(??)の外付けの DVD-Multiドライブをビデオカメラに接続すればパソコンでの面倒な編集すら全く不必要です!)のですが、そのようなディスクを作成して

しまうと、私の身の回りにある環境ではPS3以外では、そのディスクを作成したパソコンでさえ、うまく再生できない(Pentium4 3G以上でないとコマ落ちする)ので、しかたなく Mpeg2 にして DVD-Video にしようとするわずにか15分ぐらいのものを作成するのにかなりの時間(結構かかります)を要してしまい、しかも画質は落ちるので現時点ではそのあたりを十分考慮して使用する必要があります。

以上のようなことから、現時点(2008年1月末)で普通の人々が簡単に入手で

きる万能メディアプレーヤーは何かと聞かれた場合、私は即座に、自信をもって PS3 だと断言できます。量産され価格が非常に安くなった DVD プレーヤー（一流メーカー品でも数千円で買えてしまう！）から見ると少々高価なのが難点ですが、インターネットに簡単に接続できるし、Edy による極めて安全なお買い物も 3000 円ほどのオプションで Edy の読み取り装置（本当にカードサイズのものです（^^）。できればこの程度のは標準で付属させて欲しい。）を買えば簡単にできるし、あとはワープロと表計算ソフトと百科事典や辞書さえサポートされれば、もう一般家庭にあの不安定で場所をとり、お守りの大変なパソコンはいらないのではないかとさえ思う今日この頃です（^^;）。



PS3 のようなマシンを見ていると、かつて世界中で日本にしか存在しなかった一般人向けのワープロ専用機なるシロモノをふと思い出してしまいました。中身はパソコンと殆ど同じものでありながら（パソコンそのもと言っいいものも中にはありました（^^;））、メーカーの都合とコストダウンという名の下に様々な制限が設けられ、ワープロとしてしか使えないように作られた、いわばパソコンの奇形といっても過言ではないマシンだと私は思います。その当時の世界の常識（特に英語圏）では、ワープロ専用機というものは存在はしましたが、印刷業者などの一部の専門家が使うもので、パソコンには Word Star（当時圧倒的なシェアでした）というワープロソフトをインストールして使うのが普通で、ベストセラークラスの本に何一つ注釈もなく、いきなり（いきなりかい！という宣伝は……）「ワードスターで文章をまとめていると」などと書かれるぐらい有名なことでしたが、商売上手な日本のメーカーは、その当時日本語ワープロソフトはかなり実用的なものが出てきていたにもかかわらず、ワープロ専用機なるものをこぞって販売し、日本でパソコンの普及を遅らせる大きな原因を作ってしまったのではないかと考えています。

親しい人からワープロの文書を一太郎やワードに変換してくれと最後に頼まれたの



がもう 5 年も前のことなので、もうさすがにワープロ専用機を実用に使われている方は殆どいないと思われませんが、PS3 のような高性能マシンをせっかく作ったのならば、ワー

プロソフトと表計算ソフトぐらいはサポートしてくれたらなああと、ワープロ専用機

というまことに中途半端な商品（中身はパソコンとか変わらないのだからパソコンとして売ってもらった方が消費者としてメリットが大きいという意味です）が家電量販店で売れ筋商品であった時代を知る者としては痛感しています。

誰かさんのお陰で、民営化ブームではありますが、私企業というのはどんなに綺麗事を言っても利益優先にするしかないところなので、環境問題とか消費者の利益を最優先にはできないという一種のモニュメントとしてワープロ専用機やゲーム専用機を捉えていくしかないのが残念でなりません。民間では考えられない無駄をしていると、ちょっとしたことでも今のニュースキャスター達は口角泡を飛ばしていますが、その無駄のお陰で潤っている私企業があるのもまた事実で、今我々が肝に銘じなければならぬのは「風が吹けば桶屋が儲かる」と「ネズミの嫁入り」のような先人が残したもののからの温故知新なのかもしれません（^ ^ ;）。

*注 1

JPEG は、Web の普及黎明期において、Web ブラウザ標準の画像フォーマットとして、GIF と双璧を成していた。---中略---しかし、1999 年、GIF に使用されていた LZW アルゴリズムの特許を取得していた米国 UNISYS がそれまでフリーとしていた LZW 特許の特許料を徴収するという事態が発生した。これは特にインターネット普及率の高い米国と日本においてユーザーの強烈的な反感を買い、GIF 排斥の傾向が強くなったのである。

*注 2

AVCHD は松下電器産業（パナソニック）とソニーが基本仕様を策定したハイビジョン動画記録フォーマットであり、8 センチ DVD の記録容量でも十分な高画質の動画が撮影できるよう、映像には高効率符号化が可能な H.264/MPEG-4 AVC 方式を採用、音声にはドルビーデジタル（AC-3）方式（LPCM：オプション）を採用、多重化に MPEG2-TS を採用したものである。またハイビジョン以外に従来の標準方式である 480/60i もサポートしている。AVCHD では従来の HDV 規格などのように 1 つの記録メディア向けの規格ではなく、ファイルシステムを介して、複数の記録メディアをサポートできるように設計されている。

以上 Wikipedia より